

中長期目標 (学校ビジョン)	保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる	今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける				
年度当初		評価結果 (3)月					
評価項目	評価の具体項目	現状(令和2年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちのよい挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。  【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。	・90%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。(学校生活アンケート) ・97%の生徒が正しい身だしなみを実践、93%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、相手を見つけたらと声が出て挨拶している生徒は減ってきている。また、登下校時の服装の乱れも見受けられるようになってきた。 ・86%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アンケート) ・88%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・93%の生徒が「学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加している」と回答。(学校生活アンケート) ・90%の生徒が安心して安全な学校生活を送っていると回答。(学校生活アンケート) ・70.1% (74.9%)の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数(1日平均3.75件(2.02件)、一人あたり1.17回(0.69回)(通院等による遅刻も含む)。※( )内は昨年度) ・OUアンケートを年間2回(3年生1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、教育相談員、スクールソーシャルワーカー、外部機関、学年ごと連携しながら、配慮を要する生徒については個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ450件(昨年度180件)であった。	・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数が年間4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちのよいさわやかな挨拶が自らできている。 ・学校内外を問わず制服の正しい着こなしができています。 ・地域社会から信頼と信用を得ている。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面に応じた言動となっている。 ・生徒一人ひとりが鳥商生としての誇りを持ち、学校の活性化に貢献することを意識させながら行事等を実施する。 ・生徒玄関での挨拶運動と遅刻指導を継続して行う。 ・学校生活アンケートを引き続き実施する。 ・OUアンケートを1、2年生は年2回、3年生は年1回引き続き実施し、その結果を含めて教育相談員と生徒情報を共有し、配慮を要する生徒についてはケース会議等により関係者で丁寧に対応していく、必要に応じて外部機関と連携する。	・従来の職場での仕事や上級学校での学びにつながる鳥商での学びのスタイルを継続し、将来の社会生活に向けての自立を支援する。 ・社会生活を送る上で必要な日常生活における挨拶、正しい身だしなみ、規律遵守などの指導を継続して行い、自分の姿を客観的に見る力を養う。 ・学校内外での行動や態度により自分への信頼感を高めることが学校全体に好影響をもたらす、地域社会からの学校への信頼につながることを意識させる。  ・生徒一人ひとりが鳥商生としての誇りを持ち、学校の活性化に貢献することを意識させながら行事等を実施する。 ・生徒玄関での挨拶運動と遅刻指導を継続して行う。 ・学校生活アンケートを引き続き実施する。 ・OUアンケートを1、2年生は年2回、3年生は年1回引き続き実施し、その結果を含めて教育相談員と生徒情報を共有し、配慮を要する生徒についてはケース会議等により関係者で丁寧に対応していく、必要に応じて外部機関と連携する。	・89.4%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。(学校生活アンケート) ・98%の生徒が正しい身だしなみを実践、93.4%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、マスク着用生活が長引き、大声、笑顔で挨拶する姿を見なくなって久しい。 ・保護者の85%が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」、90%が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・92.8%の生徒が「学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加している」と回答。(学校生活アンケート) ・88.9%の生徒が安心して安全な学校生活を送っていると回答。(学校生活アンケート) ・66.4%(70.1%)の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均3.46件(3.75件)、一人あたり1.15回(1.17回)(通院等による遅刻も含む)( )内は昨年度) ・OUアンケートを年間2回(3年生1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、外部機関と連携しながら、配慮を要する生徒については個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ522件(昨年度450件)であった。	A	・鳥商での学びのスタイルを継続し、社会生活を送る上で必要な挨拶、マナー、身だしなみ、規律遵守等の指導を継続して行う。 ・中学生とその保護者、中学校関係者に対する鳥商教育についての説明の機会を増やす。 ・行事、活動についての目的・意義を十分理解させた上で取り組ませ、学んだことを具体的にどう活用していくかを中心に振り返りをさせる。  ・生徒玄関での挨拶運動と遅刻指導を継続して行う。 ・学校生活アンケートを引き続き実施する。 ・OUアンケートを1、2年生は年2回、3年生は年1回引き続き実施し、その結果を含めて教育相談員と生徒情報を共有し、配慮を要する生徒についてはケース会議等により関係者で丁寧に対応していく、必要に応じて外部機関と連携する。
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】  【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつき進路実現に資する模範試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多くが、コロナ禍により予定変更や中止を余儀なくされた。第27回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。就職、進学に関する卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導、1、2年生合同進路学習デー等はオンラインを併用する等実施形態を工夫して実施し、進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞を述べた。3年生に対して全職員で小論文指導、面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を発表する経験を積ませた。  ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が97名(58%)であり取得率は51.1%(33.5%)、1級未取得者は5名(11名)、1級7種目取得者1名(2名)、商業経済検定全科目合格者5名(1名)、会計実務検定全科目合格1名(なし)。 ※( )は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月29日から31日まで)を実施。 ・1、2年生対象に4年制大学見学会(12月18日公立鳥取環境大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者は、鳥取大学入学センター主催の研修会に参加した。	・各学年において、ふるさとキャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつき進路実現がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。  ・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実施する。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が121名(97名)であり取得率は65.5%(51.1%)、1級未取得者は0名(5名)、全員の1級取得率は鳥商史上初であることである。なお、1級7種目取得者1名(1名)、商業経済検定全科目合格14名(5名)、情報処理検定1級プログラミング部門満点合格1名。( )は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(8月)を実施。 ・1、2年生対象に4年制大学見学会(12月公立鳥取環境大学)を実施。	・令和3年度ふるさとキャリア教育全体計画に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施するとともに、表現力を豊かにする一助として必要な知識量(語彙力、社会事象)についての知識量を増やす取組を進める。 ・3年生への小論文指導、面接指導や就職希望者への社会人による面接指導を継続して実施する。  ・令和3年度ふるさとキャリア教育全体計画に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・講演会、マナー指導、面接指導、1、2年生合同進路学習デー等はオンラインを併用する等工夫して実施し、特に進路志望望み講演会に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞を述べた。3年生に対しての小論文指導、全職員での面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではスピーチ月間を設け、自分の意見を発表する経験を積ませた。  ・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実施する。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が121名(97名)であり取得率は65.5%(51.1%)、1級未取得者は0名(5名)、全員の1級取得率は鳥商史上初であることである。なお、1級7種目取得者1名(1名)、商業経済検定全科目合格14名(5名)、情報処理検定1級プログラミング部門満点合格1名。( )は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(8月)を実施。 ・1、2年生対象に4年制大学見学会(12月公立鳥取環境大学)を実施。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多くが、コロナ禍により予定変更や延期を余儀なくされる中、第28回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。 ・講演会、マナー指導、面接指導、1、2年生合同進路学習デー等はオンラインを併用する等工夫して実施し、特に進路志望望み講演会に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞を述べた。3年生に対しての小論文指導、全職員での面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではスピーチ月間を設け、自分の意見を発表する経験を積ませた。  ・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実施する。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が121名(97名)であり取得率は65.5%(51.1%)、1級未取得者は0名(5名)、全員の1級取得率は鳥商史上初であることである。なお、1級7種目取得者1名(1名)、商業経済検定全科目合格14名(5名)、情報処理検定1級プログラミング部門満点合格1名。( )は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(8月)を実施。 ・1、2年生対象に4年制大学見学会(12月公立鳥取環境大学)を実施。	B	・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、令和3年度キャリア教育全体計画に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施する。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施する。 ・就職希望者への地元企業の方による面接指導を継続する。
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【心身の健康作りを実践する】 ・基本的な生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送る。 ・健康課題を生徒主体で解決しようとする。  【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取り組む、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意欲した自学学習が、継続的に積み重ねられている。  【部活動に励む】 ・すべての生徒が部活動に加入し、優勝を目指した努力を積み重ねることで、人間的に成長している。	・毎朝食摂取92%、日ごろから運動を心掛けている生徒79%と健康的な生活を心掛けている生徒が多い一方、48%の生徒が就寝時間が夜1時に降になることが多くあると答えており、生活のリズムが取れない生徒も多い。92%の生徒が生活リズムが確立され授業に集中できていると回答しているが、就寝時間が遅いことが当たり前になってきていることが危惧される。(学校生活アンケート) ・睡眠が6～8時間取れているに、疲れている生徒、スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手でない生徒がいる。自己管理、コントロールする力、良質な睡眠が必要である。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施した。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガを予防する体づくり」をテーマに、理学療法士による柔軟性・可動性の前提となる「よい姿勢」のための健康教育LHRを9月に実施した。 ・体育祭(9月)での商高体操、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施した。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。 ・10年間の健康教育の取り組みが評価され、全国健康づくり推進学校最優秀賞(日本学校保健会主催)を受賞した。  ・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年146分(139分)、2年180分(143分)、3年205分(126分)と各学年とも昨年同時期よりは増加、10月平常時の自宅学習時間は1年44.9分(34.5分)、2年32.6分(40.6分)、3年44.9分(24.6分)であった。クラス間の差が大きい。 ※( )は昨年同期。 ・11月に中堅教諭等資質向上研修に係る研究授業(商業)と研究協議を実施。 ・12月にエキスパート教員公開授業(国語)を実施。  ・部活動の加入率は99%と高いが、あまり活動できていない生徒がいることも事実であるため、活動率も調べてみる必要がある。コロナ禍による全国大会の中止、中国大会の棄権もある中で好成績を収めた部もある。 ・部活動終了時刻の周知を図ったが、一部の生徒は帰宅時間が遅く自宅での学習時間が確保できていない。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送っている生徒が80%以上である。 ・体力向上に努めている生徒が90%以上である。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。 ・全国健康づくり推進の取り組みを発展させて、心身の健康作りさらに取り組む。 ・商業科目、普通教科科目ともにバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・全生徒が部活動に加入し、真摯に取り組む努力することの大切さや困難に立ち向かう姿勢を身につけると同時に、学習と内容を記録させる取組を計画する。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続し、心とからだを休めてリセットする方法を体感・体感させる。 ・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・ケガを予防する意識づけのための健康教育LHRを継続して実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を実施する。 ・実践を全国学校保健学校安全研究会で発表する。  ・毎朝食摂取91.6%、日ごろから運動を心掛けている生徒77.1%と健康的な生活を心掛けている生徒が多い。85.3%の生徒が生活リズムが確立され授業に集中できていると回答しているが、就業時間が夜1時に降になることが多くあると答えている生徒が46.6%あり、就寝時間が遅いことが常態化している。(学校生活アンケート) ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガをしない体づくり」をテーマに、理学療法士による健康教育LHRを9月に実施。 ・体育祭(7月)での商高体操、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施。  ・部活動の加入率は99.4%と高いが、あまり活動できていない生徒もおり、活動率も調べてみる必要がある。コロナ禍による大会の中止が中で、地道に努力を重ねて好成績を収めた部もある。 ・鳥取県の部活動方針や感染症対策ガイドライン等を踏まえながら活動時間を随時見直し、学習との両立を進める。  ・定期的な身だしなみ指導のみならず、身だしなみ、頭髪、挨拶などのマナー指導はビジネス教育でも行う。指導に乗らない生徒には丁寧に説明して見直しを持たせ、端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・学校運営協議会を活用し、多様な立場の意見や提言を聴取する。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年166分(140分)、2年158分(145分)、3年180分(129分)、10月平常時の自宅学習時間は1年50.1分(44.9分)、2年29.6分(50.6分)、3年35.6分(44.9分)であった。( )は昨年同期。 ・オンラインツールの活用により生徒の学習習慣が定着しつつある。 ・2月にエキスパート教員公開授業(国語)を実施。  ・部活動の加入率は99.4%と高いが、あまり活動できていない生徒もおり、活動率も調べてみる必要がある。コロナ禍による大会の中止が中で、地道に努力を重ねて好成績を収めた部もある。 ・鳥取県の部活動方針や感染症対策ガイドライン等を踏まえながら活動時間を随時見直し、学習との両立を進める。  ・定期的な身だしなみ指導に加え、学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等の指導を行った。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動がされている。 ・学校運営協議会を3回実施。産業界、地域、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。	B	・部活動を奨励し、生徒の意欲的な活動を支援する。 ・鳥取県の部活動方針や感染症対策ガイドライン等を踏まえながら活動時間を随時見直し、学習との両立を進める。
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。  【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身につけている。 ・グローバル感覚、英語運用能力が向上している。	・定期的な身だしなみ指導に加え、学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等の指導を行った。全校集会等の場面でも注意喚起した。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動がされている。 ・学校運営協議会を3回実施。産業界、地域、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。  ・第27回鳥商デパートを生徒の保護者・家族限定で開催。全学年生徒が参加した。売上3,736,475円、来場者数962人であったが、客単価が昨年の2.7倍となり保護者・家族の関心の高さがうかがえた。2月19日に成果発表会を開き協力企業、学校運営協議会委員に講評をいただいた。 ・2月末時点での図書貸出し冊数は延べ3,520冊(3,690冊)。一人あたりにすると8.5冊(6.9冊)と昨年度よりやや減少した。授業での利用時間数は444時間(345時間)と増加した。教科、分掌と連携した読書指導を実施したが、時事問題や社会問題への興味・関心の喚起は十分とは言えない。 ※( )は昨年同期。 ・アメリカ合衆国バーモント州エッセックス高校とのオンライン交流を12月より4回実施し、毎回約20名が参加した。 ・全商英語検定1級取得者14名(16名)、3級合格率83%(95%)と低迷した。 ※( )は昨年同期。 ・1年生コミュニケーション英語Ⅰで習熟度別授業を実施。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じた適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第28回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を志せるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。  ・国際交流のようすを授業や部活動を通して発信し生徒の関心を喚起することで、交流を牽引する次期リーダーを育成する。 ・オンラインで参加可能な海外交流事業への積極的な参加を勧める。 ・全商英検1級受検、実用英語検定2級以上の受検を勧めつつ、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・1年生入学後の英語初期指導を充実させるため1年生コミュニケーション英語Ⅰでの習熟度別授業を継続する。	・学校全体として年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・家庭学習と授業との連動をはかり、期間を限定しながら日々の学習時間と内容を記録させる取組を計画する。 ・1年生への一人一人端末の導入を契機として、オンラインツールを活用した学習習慣の定着を図る。 ・教科内での公開授業、相互授業参観を促進し授業力向上を図る。  ・部活動の加入率は99.4%と高いが、あまり活動できていない生徒もおり、活動率も調べてみる必要がある。コロナ禍による大会の中止が中で、地道に努力を重ねて好成績を収めた部もある。 ・鳥取県の部活動方針や感染症対策ガイドライン等を踏まえながら活動時間を随時見直し、学習との両立を進める。  ・定期的な身だしなみ指導のみならず、身だしなみ、頭髪、挨拶などのマナー指導はビジネス教育でも行う。指導に乗らない生徒には丁寧に説明して見直しを持たせ、端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・学校運営協議会を活用し、多様な立場の意見や提言を聴取する。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年166分(140分)、2年158分(145分)、3年180分(129分)、10月平常時の自宅学習時間は1年50.1分(44.9分)、2年29.6分(50.6分)、3年35.6分(44.9分)であった。( )は昨年同期。 ・オンラインツールの活用により生徒の学習習慣が定着しつつある。 ・2月にエキスパート教員公開授業(国語)を実施。  ・部活動の加入率は99.4%と高いが、あまり活動できていない生徒もおり、活動率も調べてみる必要がある。コロナ禍による大会の中止が中で、地道に努力を重ねて好成績を収めた部もある。 ・鳥取県の部活動方針や感染症対策ガイドライン等を踏まえながら活動時間を随時見直し、学習との両立を進める。  ・定期的な身だしなみ指導に加え、学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等の指導を行った。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動がされている。 ・学校運営協議会を3回実施。産業界、地域、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。	B	・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、1年LOCUS、2年研修旅行、3年鳥商デパート運営等の学びの実践の場としての諸行事のあり方の検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理能力等)を高める。 ・授業、面接指導、小論文指導の中で読書を勧め、時事問題への関心を高める。  ・国際交流のようすを授業や部活動、HPを通して発信し生徒の関心を喚起することで、交流を牽引する次期リーダーを育成する。 ・全商英検1級受検、実用英語検定2級以上の受検を積極的に働きかける。 ・1年生入学後の英語初期指導を充実させるため1年生コミュニケーション英語Ⅰでの習熟度別授業を継続する。
5. 業務改善の取組	校務分掌・任務分担の見直しを実施する。  長時間勤務者を解消する。	・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定し、夏季休業中の夏季休暇取得を促進した。 ・教員業務アシスタントの活用により、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に専念できる時間が増えた。 ・校内掲示板やGoogleClassroomの活用により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的な情報共有ができた。  ・月活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・コロナ禍で部活動が制限を受け勤務時間外の指導時間が減少した影響もあり、月当たりの時間外業務は令和元年度比で44%減となったが、時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	・月当たりの時間外業務についてはさらなる縮減を目指す。 ・休業日、活動時間を設定した活動方針を全部活動に徹底する。 ・時間外業務月45時間以上勤務者を解消する。	・年度初めに全校集会オリエンテーションを行い、生徒に速やかな全体集合を実践させる。 ・1年生にはビジネス体験実習に代わってLOCUSを導入する。 ・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、また学びの実践の場としての諸行事のあり方について、学級での状況を考慮しつつ検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理)を高める。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・新着図書紹介、国語科と連携した授業などを通して読書や時事問題への関心を高める。  ・夏季休業中に対外業務停止日を設定する。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・校内掲示板、GoogleClassroomの活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動の月別計画と実績表を活用し、生徒の心身体一体となった発達へのあり方の検討を進める。  ・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・月当たりの時間外業務は令和2年度比で11%増。時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	・業務時間外は留守番電話での対応し、職員の負担が軽減された。 ・業務アシスタント、特別教育支援員の配置により、当該分掌職員の負担が軽減された。 ・校内掲示板やGoogleClassroomの活用、会議等のオンライン配信により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的な情報共有ができた。  ・夏季休業中に対外業務停止日を設定する。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・校内掲示板、GoogleClassroomの活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動の月別計画と実績表を活用し、生徒の心身体一体となった発達へのあり方の検討を進める。  ・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・月当たりの時間外業務は令和2年度比で11%増。時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	B	・校務分掌・任務分担の更なる見直しを進める。 ・校内掲示板やGoogleClassroomの活用をさらに推進する。  ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動の月別計画と実績表を活用し、コロナ禍収束後も継続可能な時間外勤務時間の削減と部活動の充実の両立を図る。